

区政会議委員意見への対応方針

番号	年月	区政会議委員意見	対応方針	分類
第2回区政会議（延期のため書面で意見募集）				
1	R3.1	<p>【区政会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年はコロナで仕方なかったが、区政会議については開催回数を増やすべきだと考える。(林委員) ・現在の新型コロナウイルスの拡散状況を考えると、対面の区政会議も開催不可能となる可能性もある。オンラインで実施するなどの対策を取ることもひとつの選択肢ではないだろうか。(片岡委員) 	<p>区政会議につきましては、年2回の開催に加え、任意参加のラウンドテーブルの開催を年間予定としております。令和2年度は、新型コロナウイルス拡大防止の観点から、会合形式での会の開催を見合わせましたが、書面でのご意見提供をお願いし、多くの貴重なご意見をいただきました。ご指摘のとおり、様々な社会事情にも対応できるよう、オンラインで会議の可能性についても、検討していくべきものと考えております。</p>	⑤
2	R3.1	<p>【区民意見の聴取】</p> <p>区民モニター調査・つなげ隊が区民から直接意見を聴取することでは限られた声で、ホームページやSNS、役所内に意見箱を置き声を聞く方法で、1つ1つの内容を公表し、結果報告をして役所の本気度が伝われば活発になるのでは。(菊山委員)</p>	<p>これまででも、いただいたご意見を施策に反映した例を広報紙で発信する取り組みをまいりましたが、令和2年度第2回区民モニター調査から、調査時に、いただいたご意見を区施策に反映した例をお示ししました。また、区民の皆様へ直接ご意見をお伺いする活動が困難となっておりますことから、つなげ隊のアンケート調査を令和2年度にはじめてLINEでおこない、多くのご意見をいただけたところです。</p>	①
3	R3.1	<p>【区民意見の聴取】</p> <p>今まで区政と関わりが少なかった人々からの意見を聴取する手段として、ポイントを付与できるアンケートや意見収集システムを考えてはどうかと思う。ポイントは天王寺区内のお店や塾などで使えるようにすることでもっと幅広い層からの意見が収集できないだろうか。(飛田委員)</p>	<p>区民の皆様からより積極的にご意見をいただけるようなしくみや工夫について、今後検討してまいります。</p>	⑤
4	R3.1	<p>【広報】</p> <p>区としてSDGsに対して積極的に取り組むのなら、広く区民に対してSDGsを認知して頂く必要がある。(家田委員)</p>	<p>SDGsについて区民の皆様に興味を持っていただけるよう、令和3年度区広報紙での連載記事(4月号から予定)を掲載いたします。</p>	②
5	R3.1	<p>【広報】</p> <p>ご年配の方は、やはり紙ベースでの情報提供が良い様に思う。例えば、65歳以上の方には「広報紙」などを毎月1回届けるなどの施策。(橋本委員)</p>	<p>区広報紙は、新聞(5大紙)への挟み込みの他、お申込みいただければ個別配送も行っております。個別配送について区民の皆様にご案内いただけるよう、周知・案内に、より一層努めてまいります。</p>	①
6	R3.1	<p>【広報紙】</p> <p>広報紙を小学校で配付する際には、役立つ情報が載っていたり区内小学校レポートがあるなど目を留めてもらえる工夫がほしい。むしろ、保護者にダイレクトに届くツール(LINE@、SNS)に注力してはどうか。(出水委員)</p>	<p>令和2年度の広報紙の小学校配布では、防災について、子どもたちと考えていただくきっかけとしていただけるよう紙面を作成しました。令和3年度の小学校配布でも、子どもたちや保護者の皆様に興味をもって役立てていただけるような内容としたいと思います。また、子どもたちや保護者の方向けの情報を、SNS等広報紙以外のツールでお届けする工夫も検討してまいりたいと考えます。</p>	②
7	R3.1	<p>【人材育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年から自分で考え行動する人材育成を学校だけでなく地域も一緒になって行動すべきである。英語教育では区内にある国際交流センターの留学生との連携を強化してはどうか。(家田委員) ・小・中学校での英語や国際理解の充実をもっと強化し、グローバルな人材になるように育成する。(植田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、子どもたちが自立し主体的に行動できることをめざして、地域と連携した教育活動に取り組んでいます。 ・英語教育につきましては、区役所で実施している「英語交流・国際理解教室」や「ジュニアクラブ活動」において、大阪国際交流センターや大阪日本語教育センターの留学生との交流を行っておりますので、学校での交流活動や国際理解教育にもつながるよう、支援してまいります。 	②
8	R3.1	<p>【人材育成】</p> <p>子ども達が幼児期から外国人との交流をするのは良いことですが、回数を増やさないとな身に付かない。(中谷委員)</p>	<p>「英語交流・国際理解教室」において就学前児童と保護者には、英語に親しみ、英語を通して多様な文化を持つ外国人と触れ合う楽しさを体感いただき、本教室をきっかけとして、英語や多文化を学ぶことへの関心を高めたいと考えています。令和3年度におきましては、自由に参加できるイベント型事業を新たに開催し、できるだけ多くの子ども達に外国人との交流や多文化を体験し学ぶ機会を提供してまいります。</p>	②
9	R3.1	<p>【子どもの貧困対策】</p> <p>今必要な支援だけでなく、子どもたちが将来の自分の姿や働くことへの意欲をイメージできる視点が必要だと思う。テンサポという区内の事業者のコミュニティをもっとうまく使ってキャリア教育のスキームをつくれなにか。(出水委員)</p>	<p>中学生のキャリア教育として、テンサポ登録事業者にも学校での職業講話や職場体験で協力いただいております。協力いただけるテンサポ登録事業者の情報は学校とも共有を図っており、学校から希望のあった事業者には、区役所において連絡調整を行うなどのサポートをしています。</p>	①
10	R3.1	<p>【子どもの貧困対策】</p> <p>今の日本は確実に格差社会であり、一定層の貧困世帯も存在する。そういった家の子ども達に貧困の連鎖が起こらないよう、行政のサポートが必要だと考える。(林委員)</p>	<p>貧困対策につきましては、福祉・教育などの関係部局が連携し、行政として総合的に取組を進めているところですが、貧困の連鎖を断ち切るため、区役所においても学校や教育委員会等と連携し、支援を要する子どもや子育て世帯に対する支援に取り組んでいます。</p>	①

11	R3.1	【スクールカウンセラー】 生徒に寄り添って絶えず声を掛けて信頼関係を築く必要があるのに、週1回配置で問題解決ができるのか疑問。(菊山委員)	各小・中学校に週1回の配置ではありますが、各校に専任化することにより、学校や子ども・保護者の状況を十分に把握することができますので、よりきめ細やかな対応ができる相談体制の構築に取り組んでまいります。	②
12	R3.1	【スクールカウンセラー】 区内で不登校の子が多いと聞く。小・中学校へのスクールカウンセラーの配置で解決されているなら良いが、不登校の児童生徒に対する対策を充実して欲しい。(山崎委員)	カウンセリングによって不登校の未然防止や早期解決に努めるとともに、学校と区役所が連携して支援につなげる「こどもサポートネット」の取組において、カウンセラーも参画し、不登校の子どもへの支援を行っています。	①
13	R3.1	【スクールカウンセラー】 学校内でのカウンセリングの効果の評価を見直して欲しい。SNSを使ったより効果的な支援を積極的に導入すべき。(山本委員)	カウンセリングの方法や評価の見直しにつきまして、担当のこども相談センターと情報共有を図ってまいります。	⑤
14	R3.1	【子育て支援】 共稼ぎ夫婦が多くなる傾向があり保育所等の充実がはかられているが、施設や保育環境、幼児教育のレベルアップをすることが必要と思われる。(植田委員)	・区では、天王寺区に生まれた子どもを持つ家庭を対象に、乳幼児期から子どもの体験・教育等の機会を提供することにより教育投資の促進などにも活用いただけるよう子育てスタート応援券(クーポン券:10,000円分)を交付しているところです。 ・また、天王寺区は認可外保育施設も多くあり、子育て支援施設連絡会を開催するなどし、互いの情報交換等を行っています。 ・なお、市では、幼児教育・保育の質の向上を図るため、幼児教育・保育に関する研修・研究等の機能を集約した保育・幼児教育センターを平成29年度に設置し、就学前教育カリキュラム研修会の実施などに取り組んでいます。また、「事故防止及び事故発生時対応マニュアルみまもり」を活用した研修などをこども青少年局で実施しているところです。	⑤
15	R3.1	【独居高齢者】 今後も増えていく一人住いの高齢者に対しては、官民一体となった連携プレイが求められる。(家田委員)	独居高齢者の見守りについては、区役所、区社協・地域包括支援センターだけでなく、地域の方々の協力を得て実施しております。今後も高齢者食事サービスやふれあい喫茶、体操・運動等の地域活動に参加する方を増やし、高齢者が健康でいきいきとした生活ができるよう、地域の方々と連携して支援してまいります。	①
16	R3.1	【独居高齢者】 独居高齢者の男性が地域とのふれあいが少ない様に思う。独居高齢者に毎月1～2回、例えば銭湯などのクーポン券(無料)を発行して集まって会話ができる場を設けるなど、もっと気楽に顔を出せるような施策があれば良いと思う。(橋本委員)	男性高齢者の地域活動への参加を促すために、天王寺区では区社協の「生活支援体制整備事業」において生活支援コーディネーターが意見集約し、老人福祉センターで男性限定の「昭和男の体操教室」が実施されています。今後も高齢者の皆さんが参加しやすい地域活動について検討・推進してまいります。	①
17	R3.1	【見守り】 より一層、サポートの多角化を検討してほしい。(山本委員)	要援護者数が増加していく中で、見守りの重要性がますます認知されてきています。日頃地域で見守りを行っていただく中で、異変に気付いた際には区社協「見守り相談室」や区役所に連絡を頂き、速やかに支援が開始できるよう地域の方々や関係機関と連携し支援してまいります。	①
18	R3.1	【見守り】 「老老介護」や、障害者が障害者の介護をしている「障障介護」の世帯にも、独居の方ばかりでなく、行政の支援を強く願います。(林委員)	独居以外の高齢者世帯、障がい者世帯についても、複雑・深刻・多様な課題をかかえる世帯が増加しており、当事者やご家族からのご相談については、区役所、区社協「見守り相談室」や地域包括支援センター、障がい者基幹相談支援センター等でも受け付けており、互いに連携をとって必要な支援を行っております。	①
19	R3.1	【見守り】 要援護者の見守りネットワーク強化事業で、具体的にどのような内容の活動をするかを援助を必要とする人たちにさらにアピールできるよう、もっとわかりやすく説明していく必要がある。(片岡委員)	要援護者見守りネットワーク強化事業の内容については、区社協「見守り相談室」とも連携し、今後も区広報紙や区ホームページで事業についての分かりやすい説明に努めるとともに、地域での広報周知に取り組み、更に啓発を推進してまいります。	①
20	R3.1	【見守り】 見守りの調査で、項目に「希望する、しない」以外に「今はいらないが数年後には希望する」をつけ加えて欲しいと要望があった。(中谷委員)	要援護者見守りネットワーク強化事業については、毎年度、新規対象者に同意確認を行っておりますが、一旦不同意であった場合でも、その後希望された場合は、随時同意確認をとって名簿に搭載しております。その旨、区広報紙やホームページでも広報周知を継続してまいります。	①
21	R3.1	【在宅医療】 在宅医療の区内の自給率が低いと、継続的な医療が行われていない。在宅医療の充実が出来ないか。(津田委員)	天王寺区在宅医療・介護連携推進会議の中で推進委員と連携を取りながら、周知や広報に努め、充実を図ってまいります。	②

22	R3.1	<p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いまちづくりには、普段からの防災訓練を定着させることや、マンション増加による防災のあり方への考慮が必要。(家田委員) ・マンションは、賃貸の場合はオーナー、分譲の場合は管理会社が窓口となり、「防災対策」を責任を持って行うべきで、一戸建て住宅も重点的に取組を行う。(菊山委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練については新型コロナ禍において十分実施できていない現状ですが、訓練動画や啓発動画の配信、また聖和地域で実施された避難所開設訓練の動画のご紹介などを通じて広く周知・啓発に努めるとともに、感染状況収束後には地域と協議のうえ、できる範囲で徐々に訓練を再開したいと考えています。 ・またマンションについては、天王寺区ではマンションに居住されている方が非常に多いことをふまえて、専任のマンション防災支援員によるマンション単位の出前講座の実施や自主防災組織の構築支援に取り組み、防災力の向上を図っています。今後はこれらの取組みに加えて、マンションと地域との連携支援にも取り組んでいきます。 ・賃貸マンションオーナー、管理者に対しても「マンション防災学習会」などの機会をとらえ、広く周知啓発を行うとともに、広く区民に対し災害への備えについて啓発を行います。 	①
23	R3.1	<p>【防災】</p> <p>防災こそ様々な方法があり、多様性への理解ほど重要なテーマはないと思うので、区自体がもっと民間事業者と連携した防災に取り組んでほしい。(出水委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の外国人支援について大阪国際交流センターとの間で連携、対応策の検討を進めていたり、妊産婦や乳児の支援について(一社)大阪府助産師会の協力を得て福祉避難所を確保したりするなど、多様性をふまえ行政以外の事業者との防災分野での連携に取り組んでいます。 ・引き続き、民間事業者との連携については、災害時協力事業所などの制度も活用し、取組みを進めていきます。 	①
24	R3.1	<p>【防災】</p> <p>天王寺区では新規のマンション建設の勢いは衰えておらず、令和2年度に建設が予定されているマンションの開発事業者と話をする機会が多いが、「防災を地域と共に」という考えが見られない。開発協議時に、市の担当部署から区の防災担当部署との完成後の防災対策についての協議や関わり方を指導するなどの対策が必要だと思う。(飛田委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模集合住宅を建設する際に事業者は都市計画局と事前協議を行うこととなっていますが、地域防災については協議事項とはなっていません。 ・区としては、開発事業者ではなく、分譲後に住み続ける居住者で構成する管理組合に対して設立後に接触し、マンション単位での防災の取組みを働きかけ、その中で地域との連携を促していきたいと考えています。 ・また、事業者の中には、分譲前から建物完成後の防災対策について、区に相談いただける場合もありますので、その際は、マンションにおける自主防災組織の重要性や地域との関わりを伝えるなど、防災に関して協議を深めたいと考えております。 	①
25	R3.1	<p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所において密を避ける収容人数を見ると、標準的な小学校体育館程度の広さで20名程度と算出されている。これでは災害時に地域住民を収容することは到底無理である。小学校以外の避難可能な施設を確保し、公表することが必要である。安全を確認できる範囲で、在宅避難を勧めることも考えられるが、その場合水や食料を配布できるよう、事前にシミュレーションを行い、緊急時のネットワークを構築しておかなければ被災者が孤立してしまう可能性がある。(片岡委員) ・災害が発生した場合の対応がコロナの流行でこれまでと大きく変わり、避難所にはなるべく集まらず、自宅や親族宅で避難するようになったので、これまでの備蓄品や管理場所の見直しも必要だと思う。(橋本委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校を含めた災害時避難所・一時避難場所については「防災マップ」(区役所等で配布)で確認できるほか、区ホームページで受入可能人数などもお知らせしています。 ・新型コロナウイルス禍において、避難所の受入可能人数の不足が見込まれていることから、区としては在宅避難を基本として在宅避難を可能にするために必要な事前の取組みを呼びかけるとともに、発災時には災害時避難所を拠点とした在宅避難者への支援が重要と考えています。 ・災害時に円滑な在宅避難者への支援が行えるよう、区内の分譲マンションを対象にマンション単位での共助のしくみづくりを進めるとともに、災害時避難所を拠点とした在宅避難者への支援について、広報・啓発を行っていきます。 	①
26	R3.1	<p>【防災】</p> <p>各地域でハザードマップを確認し、地域での防災対策を計画することが必要ではないか。ダンボールベッドなど、避難所の備蓄品の更なる充実を。(山崎委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区内の各地域別の防災計画の概要版(全地域で作成済)やハザードマップについては、区ホームページに掲載しているほか、区役所窓口や出前講座などで配付しています。 ・今後も出前講座などの機会を活用して積極的な配付、周知を行っていきます。 ・ご意見いただいた段ボールベッドについては、保管スペースの関係で配備できませんが、大阪市危機管理室が事業者組合と締結した協定に基づき災害時には供給を受けることとしています。 ・避難所の備蓄品については、区独自で抗菌性凝固剤、LEDソーラーランタンなどの配備を進めています。加えて、令和2年度にはコロナ禍における避難に対応できるようエアベッドやマスクなどの配備も行いました。 ・今後も備蓄物資の充実を図っていきます。 	①
27	R3.1	<p>【空家】</p> <p>空家を上手に活用して、例えば「地域の備蓄倉庫」にするなど、事業として活用できないか検討して欲しい。(橋本委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空家は「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づき区で対応を行っていますが、あくまでも私有財産であるため、区が所有者等の承諾なしに利活用することは不可能です。 ・いただいたご意見について、所有者や管理者、相続権者から相談があれば、利活用について助言し検討を促します。 	⑤

28	R3.1	<p>【区の魅力発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで巡る歴史ウォークも楽しいが、蜜を避けるため個人で巡ることができるよう、マップや道標などを充実させてはどうか。(片岡委員) ・町なかでのゆかりの地や観光スポットにQRコードで誰でも簡単に見ることができる案内の設置。(山本委員) 	<p>令和3年聖徳太子御聖忌に向けて、個人でも散策いただけるように、天王寺区の観光マップ「上町台地周遊マップ」に昨年度から「聖徳太子」ゆかりの地を巡るルートを掲載しており、このマップには、「真田幸村」や「熊野街道」の道標を盛り込んだ散策ルートも掲載しています。上町台地周遊マップの面で区内の観光名所を詳しく説明しており、区役所や区民センターなどに配架しておりますので、天王寺区内の散策などに役立てていただければ幸いです。</p>	①
29	R3.1	<p>【区の魅力発信】</p> <p>歴史ウォークに関して、聖徳太子にばかりにこだわらず、例えば「天王寺七坂」等をテーマにして、天王寺が持つ歴史・文化的な魅力を幅広く発信して欲しい。(林委員)</p>	<p>てんのうじ観光ボランティアガイド協議会と連携し、「聖徳太子」以外にも「天王寺ゆかりの文学」や「天王寺七坂」などをテーマにした講演会やウォークを企画し、天王寺区の魅力発信に努めております。令和3年3月には天王寺「七」めぐりと題して、「天王寺七坂(天王寺七水)」と「四天王寺七宮」をテーマにしたウォークを開催予定です。</p>	①
30	R3.1	<p>【区の魅力発信】</p> <p>天王寺区の魅力ある場所をどんどん発信して、人が集まる場所を増やして行けば、自然とにぎわい事業となる様に思う。(橋本委員)</p>	<p>コロナ禍で人が集まる場所の情報発信が現状は難しい状況ですが、コロナ禍の状況を見極めながら、区のSNSを活用して天王寺区の魅力スポットについて積極的な情報発信に努めてまいります。</p>	①
31	R3.1	<p>【区の魅力発信】</p> <p>毎月、情報誌などに天王寺区内の9連合振興町会がお勧めするお店を載せれば、年間合計108店舗を紹介できる。例えば、「天王寺ウォーカー」とか「天王寺食べ歩き」などの情報誌を発行して天王寺の魅力を発信すれば、経済効果もあると思う。(橋本委員)</p>	<p>天王寺区内の店舗などを紹介する情報誌は、民間企業等で情報誌だけでなくSNS・アプリでも様々な情報があり、町会としてはありませんが、多くの区民・市民や利用者の声が反映されたものとなっており、まちなにぎわいづくりにもつながっていると思います。区の広報紙でも、例えば商店会連盟が主催する大阪市あきないグランプリ受賞企業などのお店を紹介するなどしているところですが、今後も機会をとらえて区内の特色あるお店などを紹介し、PRしてまいります。</p>	⑤
32	R3.1	<p>【区の魅力発信】</p> <p>プロモーションの原点であるその地域で生活する人たちがその地域の良さを知るために、小中高の生徒を対象に行ってみてはどうか。学校との協議などいろいろ大変だとは思いますが、区内の高校生が先生になって小学校や中学校の生徒に教えるようになればより面白い展開ができるのではないかと考える。(飛田委員)</p>	<p>天王寺区在住の小学4～6年生および中学生、高校生がメンバーの天王寺ジュニアクラブで、年1回まち歩きイベントを開催しています。これまでは、真田幸村、天王寺七坂、四天王寺、生國魂神社などをテーマに実施しており、今後も、まち歩きに加えて小学生・中学生・高校生の意見交換などを通じて、天王寺区の魅力を知ってもらうための活動を充実してまいります。</p>	①
33	R3.1	<p>【地域社会づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民まつりとは別に天王寺区まつりが出来れば、学校・寺院などに参加してもらい、その日1日天王寺区を散策して特色をみってもらう。学校はそれぞれ特色ある催し(文化祭や学校紹介、防災など力を入れているテーマ)をして、出店があっても良い。区全体が同じ日に何かに取り組む日があれば、マンションの人も参加しやすい。最初は参加校が少なくても、その日1日天王寺区が活気付き、高齢者子ども達も交流ができると思う。(中谷委員) ・マンションの住民が町会に入って良かったという充実感のある催し、企画が必要。今のままだと町会費だけ支払うという感じなので加入者数が伸びない。リサイクルも町会ではなくマンション独自に得があるようにする。(中谷委員) ・今は難しいが、新住民と旧住民とを結びつけるのに盆踊り等のイベントは大変効果的であると思われる。コロナが収まったら、各学校区ごとにイベントを行うことを考えても良いのではないかと。(林委員) ・9つの地域活動協議会が同一日にイベント等を開催して区民がスタンプラリー等を行えば、もっと認知度が向上し、活性化するように思う。(橋本委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・区内9地域では、地域活動協議会の構成団体をはじめ地域住民が協力して、コミュニティの活性化やつながりづくりに様々な活動が主体的に行われています。地域ごとで事業内容や予算を検討され実施されていることから、地域の活動は地域の自主性を尊重したいと考えております。 ・区全体の住民の交流のため、コミュニティ育成事業として区民まつりや区民文化のつどいなども実施しており、より効果的にぎわいづくりにつながるよう努めてまいります。 ・今後とも地域の活動やイベントをあらゆる手法で情報発信し、誰もが参加しやすくなるよう支援するとともに、地域活動協議会の周知を広く行ってまいります。 	①
34	R3.1	<p>【地域社会づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内にある事業所も団体も区民も全てを統合したコミュニティづくりにシフトアップしてほしい。(出水委員) ・天王寺区も広く地域の特徴が違う。各地域に出向き会議等を開催し具体的な問題を話し合い課題解決を行う。(植田委員) ・地域コミュニティ(町会、PTA、マンション管理組合、地域活動協議会等)の組織の強化をもっとサポートしないと協力が得られないように思う。地域活動の根幹である地域の人と人のつながりが必要。(植田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間支援組織の「まちづくりセンター」では、地域実情に応じて地域等に出向き、地域活動協議会の自律運営に向けた支援や、各種地域団体や企業等、多様な活動主体との連携・協働に向けたネットワークづくりの支援、活動の活性化を図るための支援等を、区と連携して行ってまいります。 ・今後とも、様々な地域活動の中心を担い支える地域振興会への加入促進の取り組みの連携を行い、自治会・町会の活動等を支援し、地域でのつながりづくりと地域活動の活性化を図る取り組みを行ってまいります。 	①
35	R3.1	<p>【地域活動協議会】</p> <p>まだまだ増えるマンションに対しての地域コミュニティのあり方が問題となる可能性がある。防災・防犯を切り口に地活協との連携をどうつなげていくかが今後のポイントになる。(家田委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・増加するマンションや住民に対して、地域活動協議会の活動を紹介するとともに町会加入促進の取り組みを行っております。 ・マンション住民と地域の住民とが顔見知りになって、災害時に助けあう地域のつながりづくりを醸成していくことは重要であり、マンション住民の方にも地域が行う防災・防犯活動へ参加参画される仕組みづくりに引き続き支援を行ってまいります。 	①
36	R3.1	<p>【地域活動協議会】</p> <p>コロナ禍により、地域活動協議会が用意した活動がほとんど延期・中止となっている。担当者が活動内容の変更や、予算の付替えなどで必要以上の負荷を負っているため、柔軟な対応ができるよう支援があればと思う。(片岡委員)</p>	<p>地域活動を担っていただいている皆さまには、今般のコロナ禍において感染予防及び感染拡大防止にご留意いただいたうえで予定されていた活動の延期や変更を検討いただき、コロナ禍における地域のつながりづくりにご尽力いただいております。中間支援組織である「まちづくりセンター」を活用し地域実情に即した支援を行っておりますが、引き続き支援に満足していただけるよう取り組んでまいります。</p>	①

※分類

- ①当年度(2年度)において対応
- ②3年度運営方針に反映または3年度に対応予定
- ③3年度では対応できないが、今後引き続き検討
- ④対応困難または対応不可
- ⑤その他